

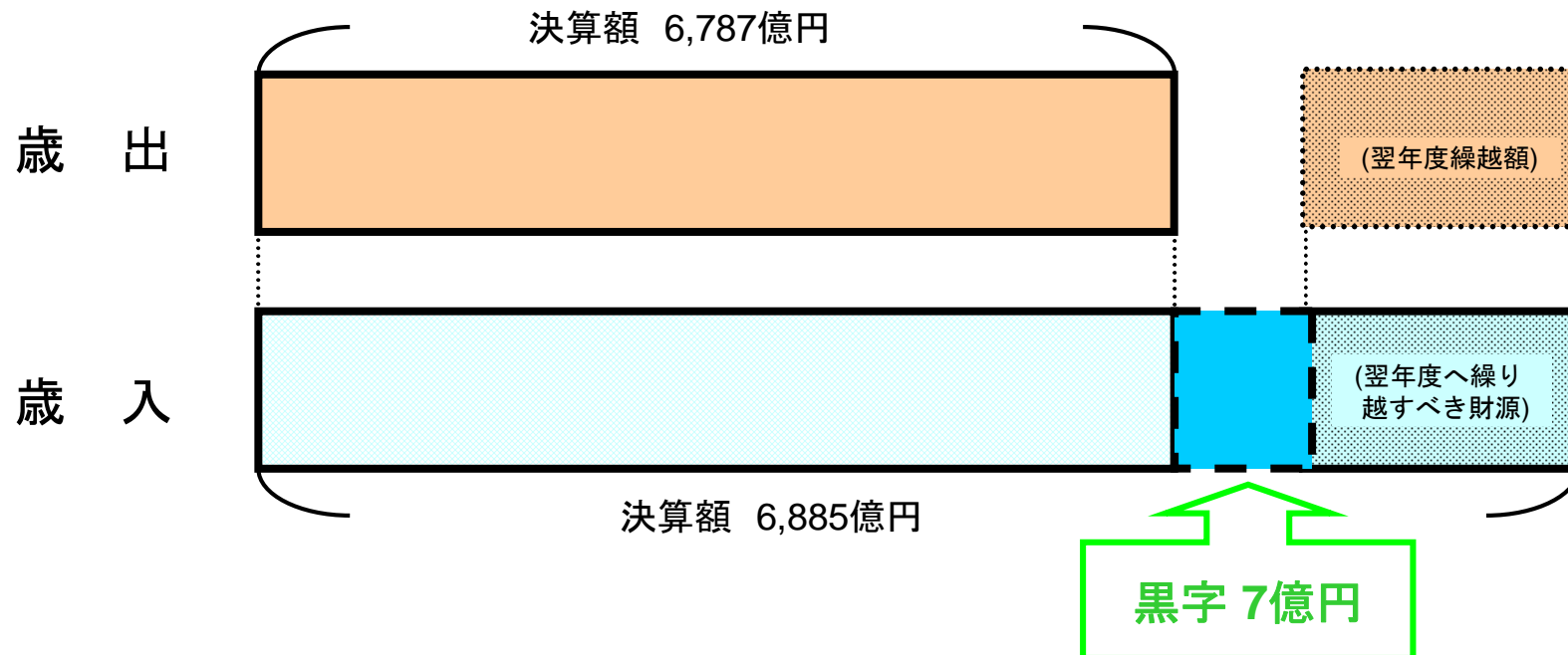
1 平成18年度一般会計決算収支のポイント

実質収支

◆ 2年連続で黒字（7億円）を確保

市税徴収率の向上をはじめとした歳入の確保と徹底した経費の節減などにより、

⇒ 17年度の4億円の黒字に引き続き、7億円の黒字を確保



平成18年度予算編成段階での取組

財政健全化プランについては、
16ページ以下を参照

■ 「財政健全化プラン」の取組をしっかりと実行

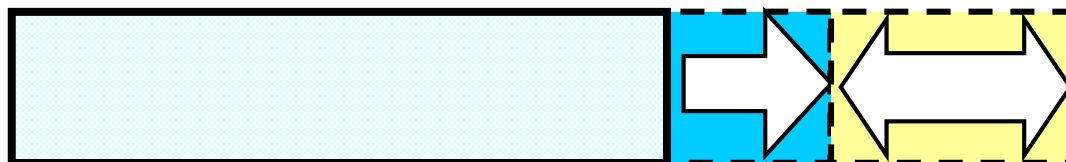
⇒ 96億円の財源を確保（一般財源ベース）

・ 行政評価システムを活用した施策・事業の再構築	40億円
・ 職員数適正化等による総人件費の抑制，公共工事 のコスト縮減等による投資的経費の抑制など	41億円

歳出



歳入



市税等徴収率の向上など 15億円

■ それでもなお，財源が不足

⇒ **特別の財源対策**
210億円により対応

特別の財源対策	210億円
公債償還基金からの借入	110億円
行政改革推進債の発行	100億円

予算執行段階での取組

□ 徴収率の向上等による市税収入の増

97.1%で、0.5ポイント改善 ⇒ 13億円の増収効果
8年連続の向上、政令指定都市中第2位

※景気の回復などもあり、市税は、17年度決算より77億円増
* 一方で、地方交付税と臨時財政対策債は17年度決算より177億円も減少

□ 節減努力反映制度の創設

年度途中での経費節減の取組を推進する仕組みを工夫

□ 市債発行の適正な管理

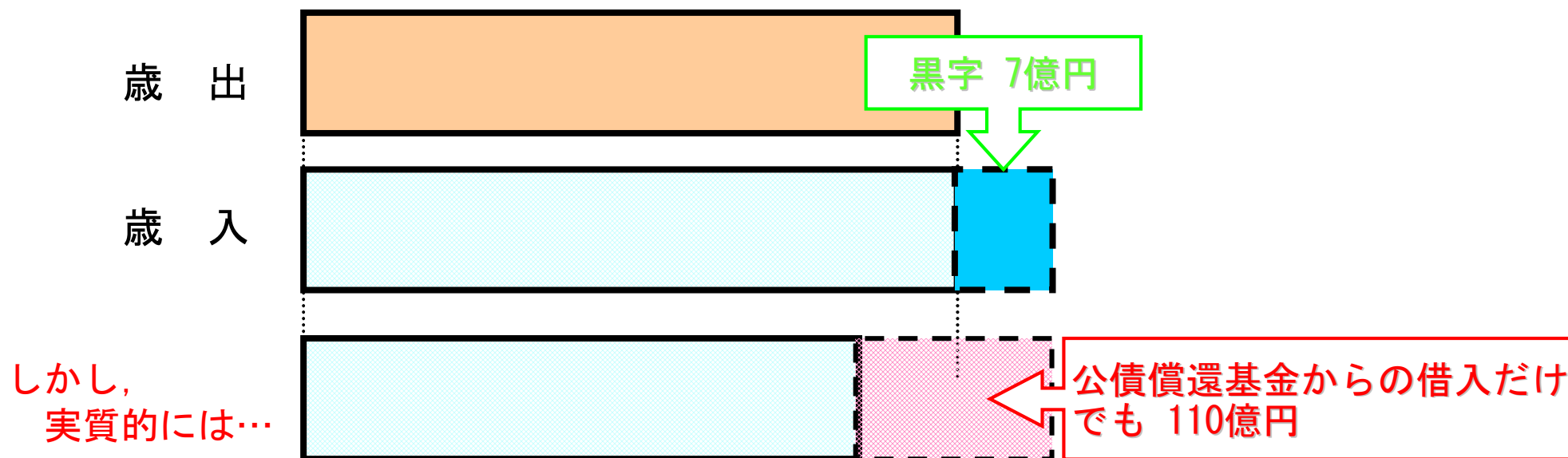
これまでから、元利償還に地方交付税措置のある有利な市債をできる限り活用（⑱末残高の約7割が交付税措置のある市債）

※ 臨時財政対策債を除いた一般会計の実質的な市債残高
9,726億円は、17年度より2億円の減少

* 臨時財政対策債を含めた一般会計の市債残高は、1兆913億円

特別の財源対策に依存した黒字決算

- 京都市財政は、依然として「非常事態」
黒字決算となるも、特別の財源対策に依存



⇒ 財政健全化の取組を更に推進

平成19年度予算も、165億円の特別の財源対策を講じて編成
特別の財源対策に依存しない財政の確立を目指した取組を
一層強力に進めていきます。